

ルシア塩満 トーク & アルパソロライブ

第1部

Cascada カスカーダ (Digno Garcia作曲)

アルパの曲には描写音楽が多い。これは世界遺産の「イグアスの滝」の流れ落ちる様子を描写しているとされていますが、作者は自分の故郷にあった小さな滝を描写して作ったということのようです。

Lejos de tí 遠いあなたへ (Martín Portillo作曲)

アルパ奏者でもあるマルティン・ポルティーリョが海外へ演奏に出かけていたときに遠くパラグアイに残してきた愛する人を想って作った曲。

Iguazú イグアス (Alfredo Rolando Ortíz作曲)

作者のアルフレド・ロランド・オルティスは「イグアスの滝」をイメージして作った曲だといっています。1曲目に演奏したCascadaと聴き比べてみてください。

Aromas del mundo 世界のかおり (Ismael Ledesma作曲)

化粧品メーカーがスポンサーだったフェスティバルで優秀賞を獲得したこの曲は、エントリートしたときはまったく違う曲名だったそうです。スポンサーに忤度したのでしょうか。

Recuerdos de mi patria 我が祖国の思い出 (Rubí Addario作曲)

ルシア塩満の恩師であるクリスティーノ・バエス・モンヘスの夫人であるルビー・アダリオが作曲した曲です。パラグアイらしい曲で、わたしは大好きな曲の一つです。

ルシア塩満 プロフィール

パラグアイへのアルパ留学を経て、アルパ奏者として1975年プロ・デビュー。これまでに七代にわたる大統領の御前演奏を務める。日本でのパラグアイ音楽・文化普及の功績が認められてパラグアイ政府から日本人アルパ奏者としてはじめて1995年に【文化功労賞】、2004年に【国家功労勲章・コメンダドル位】授与の榮譽を得る。海外ではアルゼンチンの世界的な音楽祭『コスキン・フェスティバル』に5回出場。パラグアイで開催された『世界アルパ・フェスティバル』では2007年と2016年に招待され演奏。2009年と2012年にはベネズエラで単独コンサートを成功させる。2013年には念願だった自分のトリオを組んでパラグアイへ渡りコンサートを行うという長年の夢を果たす。2015年には40年間にわたるパラグアイ音楽への情熱に対して、オラシオ・カルテス大統領から温かい感謝状が贈られる。国内でのコンサートはサントリーホール・ブルーローズ、大阪フェニックスホール、JTホール、東京文化会館小ホールなど多数。日本でのアルパの普及・発展にも尽力して、毎年『春のアルペジオ』と題してアルパ・フェスティバルを企画して後進の指導にもあたる。





2026年1月23日（金）
17:25-19:05（開場17:00）
南山大学 フラッテンホール

第2部

Pé 愛犬ペ（チコ本間作曲）

ルシア塩満の日本での恩師チコ本間の遺作となった1曲。CD化する予定でいた作品集の中にあつた曲で、テーマはかわいがっていた犬ペペが足元でじゃれついている様子をチコさんらしく味付けしています。

また君に恋してる（森正明作曲）

フォークソングのグループ、ビリー・バンバンが歌ってヒットした曲が、再び焼酎のコーマルソングに使われてよみがえりました。切ないメロディーがアルパの音色によく合っていると思います。

川の流れのように（見岳章作曲）

昭和を代表する歌手で大スターだった、美空ひばりの大ヒット曲であることはご存じのとおり。一滴の水が集まって上流から下流へ流れ、やがて大河となる様を人生になぞらえたスケールの大きな曲調をアルパで表現してみました。

El otoño sentimental 黄昏色の秋（ルシア塩満/Luis Sartor作曲）

ルシア塩満のオリジナル曲。秋の黄昏時の茜色に染まった空をバックにシルエットのように浮かぶ山並み、枯葉の舞い落ちる音も聞こえてきそうな静寂、そんな一枚の絵画のような風景を描写した曲です。

Vamos amigos ヴァモス・アミーゴス（Francisco Iglesia作曲）

さあ、行こう！と友だちに向かって声をかける、とても軽快で楽しい曲です。

Moliendo café コーヒー・ルンバ（José Manzo作曲）

ベネズエラのアルパで作られた大ヒット曲です。タイトルはコーヒー豆をひきながらあなたのことを想っていますという愛の曲ですが、なぜか日本語の歌詞には初めからアラブの偉いお坊さんが登場してくるから面白い。

